

1 題 材 北風と太陽 一分ける, 取り出すー

2 題材について

(1) 設定理由

- 本グループは2名で構成されている。2名とも言葉かけや指示を受け, 落ち着いて学習に取り組むことができる。
- 数量の実態としては, 2名とも環境を整えることで, 色や形を見分けて弁別や分類ができる。また, 机上における単純な一対一対応ができる。しかし, 1名は対応させるものが多いと, 不確実な場合がある。もう1名は, 手先が不器用で操作することに困難があるため, 給食時に牛乳やデザートを友達の分まで一つずつ配ることが難しい。また, このような実態から, ものをよく見て一つずつ分けたり, 集合数としてとらえたりする学習に取り組むことは, 日常生活において活用するためにも大切なことである。
- 本実態にかかわる学習指導要領の内容では, 特別支援学校小学部算数, 2段階(1)「身近にある具体物を数える。」がある。「数を数える」では, 具体物の操作により正確な数の対応が求められている。また, 「一対一対応をする。」では, 単純に「同じ」だけではなく, 数の大小などが分かり, 日常に生かせることをねらいとしている。
- そこで本題材では, 「北風と太陽」の話の中に複数の課題を設定し, 一対一対応から計数まで, 段階的な指導を一時間の授業の中で取り組めるようにした。最初は, 簡単な問題から取り組み, 段階的に難易度を上げることで自信を持たせ, 頑張ろうという気持ちを引き出し, 課題となる問題には, 児童が試行錯誤しながら答えを出せるように, ものの数を数える状況を設定し, 教師が繰り返し問いかけながら取り組めるようにした。このような学習をとおして, 一つずつ分ける, 半分に分けるという力を付け, さらに集合数へとつなげることができるようにと考え, 本題材を設定した。

(2) 児童の実態

氏名等	一対一対応	数字・数詞, 計数	学習態度・行動特徴など
A	びったりの数であれば, ほぼ, 間違えることなく一つずつ対応させて具体物を置くことができる。	数図カードを見て, 同じカードを選ぶことができる。	離席はなく, 授業中は教師の話に興味を持って取り組むことができる。難しい課題が出ると, 取り組むことを嫌がることもある。
B	対応させるものが, 同じような大きさの物ならば, ほぼ間違いなくできる。対応させる数が多くなると, 間違えることがある。	数字のマッチングができる。数詞を復唱することができる。	課題学習は好きで, 見通しが持てる課題には自分から取り組むことができる。

(3) 個別目標

氏名	個別目標	学習指導要領
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い間隔に置かれた皿の一つずつ配ることができる。</li> <li>・数字と枠を見て, 数図カードを選ぶことができる。</li> </ul>	(特小) 2段階(1)
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3種類の具体物の一つずつ, 配ることができる。</li> <li>・2枚の写真カードに, チップを半分(2~3個)に分けて置くことができる。</li> </ul>	(特小) 2段階(1)

3 指導計画 (30 時間取扱い: 1 単位 40 分)

- 第1次 分けよう, 合わせよう・・・10 時間
- 第2次 分けよう, とってみよう・・・20 時間 (本時は第9時)

<b>改善テーマ</b>	話と学習を交互に設定した授業展開の工夫
<b>課題点 (Check)</b>	<b>改善点 (Action)</b>
<p>一対一対応は、かなり正確にできるようになった。具体物の操作にも慣れてきて、スムーズに活動ができるよう様子が見られる。また、数字への興味を示しており、教師と一緒に数字カードを指さす様子が見られる。集合数につなげるための工夫が必要である。</p>	<p>学習内容に計数の段階を含めることで、これまでの学習の関連性に気付けるようにした。また、話の内容と活動により関連性を持たせた。提示した数図カードと同じものを選ぶことで数字と計数に取り組みさせた。</p>

#### 4 本時の指導

##### (1) 個別目標

- 数字カードや数図カードを見て、同じ数図カードを選ぶことができる。 (A)
- 教師と確認をしながら、3種類の具体物をつずつ配ることができる (B)

##### (2) 準備・資料 自作パネルシアター、写真カード、チップ、数字カード、数図カード

##### (3) 展 開

⇒評価の観点

時間	学習内容・活動	指導・支援上の留意点
2	<p>1 本時の学習内容・活動を知る。</p> <p>(1) 始めのあいさつをする。</p> <p>(2) 学習内容を聞く。</p> <p>2 お話を聞いて問題に答える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ひまわりとあさがおを太陽が見守っている。そこへ北風がやってきていろいろなじわるをする。みんなでいろいろな問題を解けば、北風と太陽がなかよくできる・・・さあがんばろう！</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の号令を聞いて、きちんとあいさつすることで、学習の始まりを意識できるようにする。</li> <li>・使用する教具と一緒に確認することで、活動の見通しが持てるようにする。</li> <li>・話の途中で課題を設定する展開とすることで、最後まで集中して学習ができるようにする。</li> <li>・<b>A</b>が話を聞いて気持ちが盛り上がりすぎないように、声量やトーンを調整して落ち着いて話が聞けるようにする。</li> <li>・<b>B</b>が最後まで話を聞けるよう、話は短めに単純化して、課題に取り組む時間を多くとれるようにする。</li> <li>・<b>A</b>があまりのチップをどうしてよいか迷っている時は、「それ、どうしようか？」などと言葉かけをしたり、籠を児童の近くに置くようにしたりすることで、本人が考える場面となるようにする。活動が滞ってしまうときには、教師に渡していいことを伝えるようにする。</li> <li>・<b>B</b>が同じところにチップを置いてしまうときには、チップが置かれていないところを指さしたり、重複しているところを確認したりすることで、もう一度取り組むようにする。</li> </ul> <p>⇒あまりのチップを教師に渡したり、カゴに残したりすることができたか。(A)</p> <p>⇒正しく一対一対応できたか。(B)</p>
5	<p>(1) 一対一対応を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょうどの一対一対応</li> <li>・余りがある一対一対応</li> <li>・広い範囲での一対一対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しくチップを半分にできないときには、チップを児童と一緒に確認して「同じ」でないことを確認して、再度取り組むようにする。</li> <li>・「同じ」ということに混乱している児童には、数図カード(ブロック)教師と一緒に確認することで見通しを持つことができるようにする。</li> <li>・<b>A</b>は、同じということを数字カードでも確認することで、数字と具体物の関係に気付くことができるようにする。</li> <li>・<b>B</b>が正しく具体物を分けられないときには、教師も同じように分けることで、自分とどこが違うか気付けるようにする。</li> </ul>
15	<p>(2) 「きたかぜ」や「たいよう」にひまわりやあさがおの花を配る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三種のチップを種類ずつ配る。</li> <li>・二枚の写真カードに、チップを半分(2～3個)に分けて置く。</li> <li>・三～四枚の写真カードに、チップを半分(2～3個)に分けて置く。</li> <li>・分けたチップと数字カードで確認する。</li> </ul> <p>(3) 数字カードや数図カード(ブロック)を見て、友達にひまわりの種を渡す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しくチップを半分にできないときには、チップを児童と一緒に確認して「同じ」でないことを確認して、再度取り組むようにする。</li> <li>・「同じ」ということに混乱している児童には、数図カード(ブロック)教師と一緒に確認することで見通しを持つことができるようにする。</li> <li>・<b>A</b>は、同じということを数字カードでも確認することで、数字と具体物の関係に気付くことができるようにする。</li> <li>・<b>B</b>が正しく具体物を分けられないときには、教師も同じように分けることで、自分とどこが違うか気付けるようにする。</li> </ul>

15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字, 数図カードを見て, 同じ数だけ具体物を取り出す。</li> <li>・数字カードを見て, 同じ数だけ具体物を取り出す。</li> </ul>	<p>⇒正しくチップを半分に分けることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り出したチップをお互いに比較して確認することで, 同じことや違うことに気付けるようにする。</li> <li>・数図カードをみて, 具体物を取り出せないときには, 数図カードに取り出すチップをはったものを見て確認することで正しく取り出せるようにする。</li> <li>・最初は, 具体物を1～3個にまとめてブロックとしておくことで, 数図カードと対応して取り出すことができるようにする。</li> <li>・数字カードを見て正しく具体物を取り出せなかった時には数図カードを数字カードの下にはることで, カードに対応させて取り出せるようにする。</li> </ul> <p>⇒数字カードや数図カードをみて, 同じ数の具体物を取ることができたか。(A)</p> <p>⇒数図カードにチップを合わせて置くことができたか。(B)</p>
3	<p>3 本時のまとめをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本時の活動を振り返る。</li> <li>(2) 終わりのあいさつをする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を振り返りながら賞賛し, 達成感が味わえるようにする。</li> <li>・教師を見てあいさつをすることで, 授業の終わりを意識できるようにする。</li> </ul>